

* 2年度の改善プランの検証

令和2年度「大田区学習効果測定」の結果は、対象4、5、6年生ともに区の目標値を大きく上回っていた。また、全国値も同等の水準だった。特に結果からみられる考察では、毎年きちんと学習の定着がされていることが分かった。これは、3年からの算数少数指導の効果だと考えられる。ただし、細かく見ていくと、4年生、5年生は中級以上が区より低く、6年生は中級者が多いことが分かった。このことから、中級クラスのみめ細やかな指導が期待されている。今後の指導として、自分の考えを伝えることができる児童の育成を心がげたい。自分の意見だけでなく、友達の見解を聞く、相違点を探すなど、深く考える授業時間の確保が必要。そして、中級以下の児童の基礎基本の定着も課題である。九九、繰り上がり、繰り下がり、図形の構成や用語、また、位取りなどを個人指導で教える時間も確保していかなくてはならない。児童がどこで引っかかっているのか把握して的確に指導することで、少しでも自信をつけて算数に取り組んでいけるようにしたい。

* 3年度の改善プラン

算数	観点	児童の実態			
		児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
算数	知識・技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> ・足し算・引き算の計算については、概ね正しくできる。しかし、引き算は仕組みを理解するのに時間のかかる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・念頭で計算できず、指を使っている児童が何人かいる。 ・数の集合数、順序数を正しく理解できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作でのひき算の仕組みを視覚的につかませ、念頭で計算できるまでブロック操作を繰り返し指導していく。 ・既習事項の復習をする時間を設け知識の定着を図る。生活の中でも意識して使う場面を増やしていく。
		二年	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算の計算や筆算の仕方は理解に個人差がある。 ・長さの学習では、ものさしのcm、mmの目盛り、水のかさの学習では、L、dL、mLの目盛りは捉えられても、それらの単位関係の理解が不十分な児童もいる。また、時刻と時間や、時間の経過の理解が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り下がりのある筆算では、位の理解が不十分な児童がおり、くり下がりのない筆算でも繰り下がりをしてしまうことがある。見直しを行わない児童が多い。 ・L、dL、mLの単位関係が理解できていない児童もいる。 ・時刻と時間の理解(○分前・○分後の時刻)が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりや繰り下がりを確認しながら、計算問題を繰り返して行う。 ・単位関係については、デジタル教科書などを用いて視覚的に理解できるようにし、実際に体験する中で量感を育てていく必要がある。 ・時刻と時間の学習では、年間を通し、学校生活の日常の場面を通じて、指導していく。
		三年	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりのあるわり算は概ねできている。九九と繰り下がりのひき算がしっかりと覚えていた児童が多いことが分かった。しかし、文章問題を作る問題となっており、できない児童が急激に増えた。 ・時刻と時間、長さなどは、概ねできている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題は、解けるが実際に自分で問題の続きを作る問題になると、作れない児童がほとんどであった。等分除、包含除の意味や何を求めているのか最後の文章で分からなくなってしまうようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に問題作りをする時間を確保すること。等分除の意味や包含除の意味をしっかりと押さえるためにも、問題作りを充実させる必要がある。
		四年	<ul style="list-style-type: none"> ・位取りができない児童が多い。そのため、書いたり読んだりすることが苦手である児童が多かった。 ・小数のたし算、ひき算では、0.01がいくつなどの換算が出来ない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい数の位取りができない児童がいる。ある数を1/10や1/100にした時に位取り表に正しく記入できない児童がいる。 ・たし算やひき算は、繰り下がりができない児童がまだ多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数点が入っても基礎基本である繰り上がり、繰り下がりやきちんとできるように、ドリルワークなどを用いて、朝学習や家庭学習で多くの問題に取り組ませる。 ・位取りをきちんと覚えてもらえるような工夫をする。例えば、小数点をそろえたら、空いている位には0があると考えることも必要である。
		五年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に概ねできている児童が多い。知識としてはあるが、時々簡単なミスをするところがある。 ・直方体や立方体のかさの表し方でもほとんどの児童ができていた。特に変形した直方体のかさなども計算できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねできている児童が多い学年である。明らかになった課題としては、聞かれていることを理解せず、自分勝手な解釈で先走って考えてしまう児童が多くいることである。問題文の全文読まずに、立式してしまう児童も少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中でも、ノートに問題を書いてから問題文の意味を捉えて解き進めるようにする。 ・ノート指導の徹底を強化する。何をどこに、また友達への考えなども書いておくようなノートづくりをさせたい。
		六年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての単元にたいして概ねよくできていると感じる。ほんの一部に慌てて計算ミスや勘違いなどでミスをする児童もいる。 ・図形や立体の構成要素、形を正確にとらえ、応用する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数用語を適切に使ったり、既習事項を使って考えたりの確に説明することができない児童がいる。 ・図形の性質を使って問題を解決する筋道が立たない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を繰り返し指導する。用語を活用することが定着するようにする。 ・他の児童の考えを説明させたり、複数の児童に考え方を説明させたりする時間を設ける。
算数	思考力・判断力・表現力等	一年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を読んで場面の状況をつかみ、それを立式に結び付けられない児童がいる。特に引き算になる文章問題を読んで、立式のイメージをもつことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演算決定のための文章の読解力が不足している。特に引き算では、どちらがひかれる数、ひく数なのかとらえることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や図にかき表すことから、問題をイメージできるようにしていく。 ・文章題で分かっている所、聞かれている所に下線を引いたり、絵や図にかき表し解決の仕方考えたりの活動を取り入れ指導していく。
		二年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の文意を捉えて式を立てたり、正しく解決したりする力について個人差がある。算数の技能的な点よりも、問題の問いかけを理解できていない児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かして問題解決をするのに課題がある。 ・演算決定のための文章の読解力が不足している児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に文章題では、分かっているところ、聞かれているところに下線を引いたり、解決の仕方を絵や図に描き表したりする活動を取り入れて、指導していく。 ・図式化したり、デジタル教科書を用いたりすることで、視覚的にも立式の意味をイメージできるようにしていく。
		三年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読む力はついてきているため、立式するときしっかりと把握できている児童が多い。 ・図で説明しようとする児童が多くいる。 ・繰り上がり、繰り下がりも概ねできている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応用問題が出ると、図や数直線を用いずに考えようとして不正解になる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習は概ねついてきていると考える。しかし、ある一部にノート指導が必要な児童がいるのも事実である。図でかいたり数直線にかいたりして、ノート指導に力を入れる。
		四年	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の筆算では、説明をする児童が多かった。できなかった児童も説明を聞いてできるようになったり、考えるようになったりしながら授業が進められるようになった。 ・グラフや表などではしっかりと理解して取り組む児童が多く見られたので、極端に出来ない児童はいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある一部の児童の意見は多いが、発言しない児童も多くいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の説明を聞いて理解を深める児童も多くいることから、状況に合わせて適宜小グループによる交流活動を行う。自分の考えをもてなかった児童も、友達の説明を聞いて分かったことを発表したり、ノートにまとめ直したりするなど、表現する機会を確保する。

	五年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えて、発表しようとする児童は多いが、自分の考えをもてない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決できる児童は、数直線や図をかいて説明できる。そうでない児童は、自分なりに自分の考えを書こうとはしているが十分に書くことができない児童、友達が答えてから答えだけ写す児童があり、個人差が広がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を確保すると同時に小グループによる交流活動も適宜行う。自分の考えをもてない児童には、ヒントや個別で対応するほか、グループ交流での学び合いを活用させる。また、グループ交流を活かしたグループ発表を行う。その過程で友達の意見を聞き、問題の解決方法を理解させていく。友達の意見を聞いて、考えたことや思ったことなどを発表させ、振り返りを充実させる。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを筋道を立てて説明しようとしている児童が多いが、用語を適切に用いて、的確に説明する力に課題がある。 ・自分の意見はしっかり持っているが、友達の意見と比べて検証する力は十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数で使う用語が定着していない。用語を使って考え方を的確に説明する機会が少ない。 ・自分だけでなく、友達の意見を聞いて自分と似ているところ、違うところなどを聞いていくなどする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習したり、新しい用語には色を変えて何度も繰り返し指導したりする。 ・人の意見に耳を傾けることから始める。そのうえで、発表者の意見や自分の意見の相似などを比べさせたり、付けたししたりしながら、色々な考えに触れさせていく。

算数	主体的に学習に取り組む態度	一年	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成や仲間づくり、数の大小、物の順序など、ブロック操作を通して意欲的に学習を進めることができた。計算にも意欲的だが、早さを気にするあまり、計算ミスが目立つ児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数についての感覚を豊かにするために、具体物や半具体物を使って取り組ませている。しかし、10のまとまりや10の構成がまだ定着していない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念を視覚的に理解できるようにするために、ブロックや数遊びなどの活動を多く取り入れていく。フラッシュカードなどを朝学習など様々な場面で活用するなど、繰り返し行うことで定着を図る。
		二年	<ul style="list-style-type: none"> タブレットや具体物を用い、意欲的に学習に参加する児童が多く見られた。 繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算といった計算問題にも進んで取り組むことができる。 間違えた理由を考えずに先に進んでしまい、定着が図れていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数に対する苦手意識をもっている児童が若干名いる。 具体物を操作しても、それが学習の理解に繋がらない児童がいる。知識として理解するだけでなく、実際の生活とも結び付けて考えていけるようにする必要がある。また、量感を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 時刻や時間、身の回りにあるものの長さ、かさなど、日常活動の中で意識させ、学習への関心を高めていく。 数への概念を豊かにするために、「だいたい〜くらい」といった予想をしながら学習を行うようにする。
		三年	<ul style="list-style-type: none"> 計算は得意とする児童が多い。まだ、繰り下がりや引かかる児童も数人いる。指を使って計算する児童も数人いる。 長さなどは、実際に測ることにより身につけている。時間と時刻も数直線で考えられる児童がいる一方で、計算で時刻を表すことのできない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲はとてもある学年である。一方でノートに図で表したり、自分の考えを言葉で表したりするなど、書けない児童が目立つ。自分の考えはもっていても、友達の見聞を聞いたり、聞いて考えたりすることはなかなかできないのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> どの児童も意欲的になれるように、体験を通したり、日常に則したりした授業を展開したいと考える。 話し合い活動を多く取り入れて、友達の見聞を聞いたり、自分の意見を話したりする活動を算数科でも取り入れていく必要がある。
		四年	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に粘り強く考えたり、間違えを修正したりする力は弱く、解き終わると見直しをしない児童が多い。 小数の学習では、1/10や1/100の位の何倍など位取りができない児童は主体的に取り組むことができないでいた。 グラフや表などは、諦めずに取り組む姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ケアレスミスが多く見られた。正答を導くために粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。特に小数に課題が見られる。 表やグラフはかける児童は多いが、それを身の回りや生活の場面に生かすような児童は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 見直し・間違い直しを習慣づける。 課題とした小数の学習などを単元末の学習や朝学習の時間を使って復習し、理解を深めていく。 身の回りにあるグラフや表の良さに気付くような活動を取り入れていく必要がある。
		五年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組む児童が多い。進んで自分の意見を発表できる子も多くいる一方で、自信がもてずに消極的な児童もいる。 算数に苦手意識がある児童がいて、取り組みから諦めてしまう場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算できていても単位の書き忘れが目立つ。また、立式できていても計算ミスが目立つ。早くやろうとする意識が強い。 学習に意欲的な児童が多いが、自分の意見を発表することができない児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 検算しなど計算ミスも見つからないので、検算するように授業中でも行うことを進める。 ある一部の児童のみ意見が多くなり、意見があっても発表しない児童の声掛けや発表できる体制を整える。
		六年	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に意欲的に取り組む児童が多くいる。発言は少ないが、自分なりの考えをノートに書いている児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 速く、多く問題を解くことに重きを置いている児童がいる。速く解くことはよいが、そこにミスが生じる場合がある。 発言の少ない児童の考えも広めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 検算しなど計算ミスも見つからないので、検算するように授業中でも行うことを進める。 グループでの交流活動を取り入れて意見交換などができる時間を設ける。